

平成 30 年 12 月 5 日

福岡市政記者 各位

業務効率化に向けて AI-OCR の実用性を検証します

福岡市は、株式会社 NTT データ及び株式会社 NTT データ九州と、福岡市役所における業務の効率化を目指し、下記の通り AI-OCR によって紙の実帳票をどの程度の精度で読み取れるかを確認し、その実用性を検証します。

検証結果については平成 30 年度末をめぐりに取りまとめ、公開する予定です。

※AI-OCR とは：

従来の OCR 技術 (Optical Character Recognition: 光学的文字認識。イメージスキャナー等で取り込んだ文書の画像を読み取り、デジタルの文字に変換するもの) と AI の「機械学習」・「深層学習」とを組み合わせて、学習した内容に基づいてルールを見出し、手書き文字や項目ごとの文字認識を高い精度で行うものです。

記

1. 実施期間

平成 30 年 12 月～平成 31 年 2 月

2. 実施内容

福岡市役所の以下の業務における紙の実帳票（手書きのサンプルデータを使用）を AI-OCR によってどの程度の精度で読み取れるかを確認し、その実用性を検証します。

- ・ 就学援助の受付に関する事務（就学援助申請書）
- ・ 税の申告に関する事務（給与支払報告書） など

※詳細は、別紙実施事業者のプレスリリースをご参照ください。

(url : <http://www.nttdata.com/jp/ja/news/release/2018/120501.html>)

※本取組は福岡市と日本電信電話株式会社（NTT）で平成 27 年 4 月 14 日に締結した「地域共働事業に関する包括連携協定」の取組の一つとして実施します。

【 問い合わせ先 】

福岡市総務企画局 ICT 戦略室 ICT 戦略課 植村
電話：092-711-4356



NEWS RELEASE

2018年12月5日

つくば市、町田市、横浜市、福岡市、郡山市、市川市と 業務効率化に向けてAI-OCRの実用性を検証 ～実帳票における読取率およびRPAとの連動シナリオを用いた効果を確認～

株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータ(以下:NTTデータ)は、複数のRPA先進地方公共団体とともに、地方公共団体の業務効率化に向けた企画開発の一環として、実帳票を用いたAI-OCR^(注1)の読取率検証を実施します。

今回の効果検証では、AI inside株式会社(以下:AI inside)のAI-OCRソリューションである「DX Suite」と国内シェアナンバーワン^(注2)のRPAソリューションである「WinActor」を活用し、つくば市等の地方公共団体にて実際に使用している帳票等を読み取った場合の読取率を確認します。

今後NTTデータは、開発中のRPAとAI-OCRとの連動シナリオを用いた効果検証についてもあわせて実施し、2018年度末をめどに成果発表を行う予定です。

【背景】

NTTデータが2018年5月に成果報告した、茨城県つくば市(以下:つくば市)とのRPA活用に関する共同研究^(注3)では、地方公共団体におけるさらなるRPAの活用促進の課題のひとつに、「大量に保管している紙書類のデジタル化」を挙げています。

この課題への対応策として、NTTデータでは、紙の各種帳票をAI-OCRで電子化しRPAソリューションと連携させる地方公共団体向けサービスを検討しています。このたび、その一部の実用性を検証するため、2018年12月より、つくば市など、RPAの導入を実施または検証中の地方公共団体より実帳票を受領し、AI-OCRの読取率検証を開始することとしました。

【共同研究概要】

今回、AI-OCRソリューション「DX Suite」とRPAソリューション「WinActor」を活用したサービス実現に向けた取り組みの一環として、各地方公共団体の各種業務の実帳票およびサンプルデータを「DX Suite」でどの程度の精度で読み取れるかを確認し、実用性を検証します。

対象の帳票については、各地方公共団体より、手書き/印字の別、また、定型/非定型を問わず、特定の業務に偏ることなく幅広い業務のものを受領し、さまざまなバリエーションについて実証する予定です。一方、「帳票数が多いもの」「手入力後RPAによる自動処理を適用できそうなもの」等の観点についても考慮します。

■実証期間 :2018年12月～2019年2月

■参加団体^(注4) :つくば市(給与支払報告書、出生届など)

町田市(介護保険認定申請書、国民健康保険療養費支給申請書など)

横浜市(妊婦健康診査費用助成申請書、納入済通知書など)

福岡市(就学援助の申請書、給与支払報告書など)

郡山市(保育の利用申込書など)
市川市(児童手当・特例給付認定請求書など)

【今後について】

実証結果については2018年度末をめどに公開し、各地方公共団体における当該ソリューションの有効性を示すとともに、申請書のデジタル化に伴う業務量削減効果の測定結果等、具体的な導入につながる情報提供を実施する予定です。また、NTTデータが開発中のRPAとAI-OCRとの連動シナリオを用いた効果検証についても実施し、あわせての発表を予定しています。

【「DX Suite」について】

AI inside が提供する「DX Suite」は大量の紙書類を高精度で仕分け・データ化し、業務効率化を支援するAI-OCRソリューションです。NTTデータは、DX Suite をオンプレミス型とクラウド型の両形態で提供する唯一のパートナーとして、サービスを展開しています。

NTTデータ 2018年9月27日ニュースリリース「AI inside 社と業務提携し、RPAとOCRによる一元的な事務効率化を実現」

<http://www.nttdata.com/jp/ja/news/release/2018/092701.html>

【「WinActor」について】

Windows 操作ロボット「WinActor」は、2010年に日本電信電話株式会社の研究所が開発した技術をベースとする純国産のRPAソリューションで、提供パートナー開拓や技術研修教材作成等を、販売元のNTTデータが担当しています。

(注1) AI-OCRとは従来のOCR技術と「機械学習」・「深層学習」とを組み合わせ、学習した内容に基づいてルールを見出して読み取る技術のことで、手書き文字や項目ごとの認識を高い精度で行えるものです。

(注2) RPABANK Web サイト:<https://rpa-bank.com/report/5415/>

(注3) NTTデータ 2018年5月11日ニュースリリース「自治体における「WinActor」活用に関する共同研究成果を公表」

http://www.nttdata.com/jp/ja/news/services_info/2018/2018051101.html

(注4) 福岡市については株式会社NTTデータ九州、郡山市については株式会社NTTデータ東北が窓口となります。

*「DX Suite」は日本国内におけるAI inside 株式会社の登録商標です。

*「WinActor」は日本国内におけるNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

*その他の商品名、会社名、団体名は、各社の商標または登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】

<p>■ 報道関係のお問い合わせ先 株式会社NTTデータ 広報部 後藤 Tel:03-5546-8051</p>	<p>■ 製品・サービスに関するお問い合わせ先 株式会社NTTデータ 社会基盤ソリューション事業本部 ソーシャルイノベーション事業部 ソーシャルビジネス統括部 第二営業担当 里田、松村、伊藤、早川 Tel:050-5546-2123、050-5546-2448</p>
--	--